

## 講習会 開催報告

### 2025年度医療福祉連携講習会を受講して

岩手県立磐井病院患者支援センター 鳥畑幸枝

私は患者支援センターで退院支援看護師として主に後方支援を担当しており、2年目となります。自身のスキルアップを目的に本講習に参加しました。



会場風景

日頃の業務の中で、本人と家族の意向が定まらない場合や、受け入れ先の病棟機能を十分に理解しないまま調整を進めてしまうことの難しさを感じていました。今回の講習を通して、後方支援は単なる転院調整ではなく、患者さんのその後の生活を見据えた支援であることを改めて学びました。

特に、受け入れ先の医療機能や役割を理解したうえで情報提供を行うこと、そして本人・家族の思いを丁寧に整理し、意思決定を支える関わりの重要性を再認識しました。医療と介護・福祉それぞれの立場を理解しながら調整する姿勢が、安心して次の療養先へつながるのだと感じました。

今回の学びを今後の実践に活かし、より丁寧なアセスメントと調整を心がけ、患者さんとご家族が納得できる退院支援を行っていきたくと考えています。

### 2025年度医療福祉連携講習会を受講して

桐生厚生総合病院地域医療連携室 細谷弥生

私は、看護師として20年ほど病棟業務を行ってきました。その中で、高齢者の多い地域での退院調整は様々な背景から難渋するケースがあり、退院支援の難しさを感じていました。

地域医療連携室への異動をきっかけに退院支援に携わる機会が増え、連携業務の知識を学ぶため、医療福祉連携士の認定資格取得に向けた講習会への参加を決めました。毎月のオンライン研修では、福祉の制度と共に、変わっていく日本の医療の新しい情報を得ることができ、先を見据えた連携業務に取り組めるようになったと思います。実習科目では、近

隣の総合病院や介護老人福祉施設、地域包括支援センターで実習を行いました。実習を通してそれぞれの機関の役割や取り組み、スタッフの思いを知ることができ、これからの連携業務の進め方を考える機会となりました。また、顔の見える連携の大切さも実感し、日々の連携業務の中で活かすことができていると感じています。実習では、私が想像していた以上に充実した実習となり、とても多くの学びが得られました。

高齢者の多い地域では、地域との連携がスムーズな退院支援に繋がり、また安心できる地域生活にも繋がると感じます。医療福祉連携士の資格を取得することができ、講習会を通して得られた知識、実習で得られた顔の見える連携を活用し、患者さんやその家族に寄り添う支援ができるよう努めていきたいと思えます。

## 支部学術集会開催報告

### 第16回岩手県支部学術集会

学術集会会長：岩手県立久慈病院院長

遠野千尋

2025年9月27日(土)、岩手県立中央病院4階大ホールにおいて、第16回日本医療マネジメント学会岩手県支部学術集会を開催しました。テーマは「持続可能な医療提供体制の構築～医療人材の確保と育成が必須～」とし、一般演題、特別講演、シンポジウム、ランチョンセミナーを実施し、80名が参加しました。一般演題では会場参加者の投票により3演題を優秀発表として表彰しました。特別講演では、全国自治体病院協議会会長の望月 泉先生より「新たな地域医療構想と持続可能な医療提供体制の構築」、一般社団法人日本地域統合育成機構理事長の重田由美先生より「アンサンブル～これからの持続可能な医療人材の育成～」についてご講演をいただきました。シンポジウムでは、福岡国際医療福祉大学ヘルスサービスリサーチセンター所長の松田晋哉先生の基調講演のもと、地域の保健師、消防士、臨床検査技師長がそれぞれの立場から人材育成について発表しました。さらにランチョンセミナーでは、日本体育協会公認ラグビー上級コーチの松井英幸先生より「One for all, All for one—チームに必要な人材育成の視点—」と題した講演をいただき、地域医療の持続に向けた人材育成の重要性を共有しました。